



薬事日報社
〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎(03) 3862-2141
FAX (03) 5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
☎(06) 6203-4191
FAX (06) 6233-3681
購読料 半年19,764円
(税込) 1年36,234円

日本薬学会
第142年会

創薬イノベーションが 切り拓く新時代の医療

日本薬学会第142年会が25～28日の4日間、「創薬イノベーションが切り拓く新時代の医療」をメインテーマにオンラインで開催される。名古屋市中での開催に向けて準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて現地開催をやむなく断念し、オンラインでの開催に切り替えた。

一般演題のポスター発表にはバーチャル空間でアバターを用いて会話をする仕組みを取り入れるなど、オンラインならではの新たな試みも導入する。

「この2年間で、コロナで積極的な学術交流活動ができなかった。その閉塞感を打破するためにもぜひ現地で開催したいと準備を進めてきただけに非常に残念で、惜しくもない」と語る。

「この2年間で、コロナで積極的な学術交流活動ができなかった。その閉塞感を打破するためにもぜひ現地で開催したいと準備を進めてきただけに非常に残念で、惜しくもない」と語る。

「この2年間で、コロナで積極的な学術交流活動ができなかった。その閉塞感を打破するためにもぜひ現地で開催したいと準備を進めてきただけに非常に残念で、惜しくもない」と語る。

日本薬学会第142年会

25～28日 オンラインで開催

発表内容を説明し、参加者との対話を行う。発表内容の説明には、ポスターデータに加えて動画ファイル等の別資料を自由に使用できる。参加者はアバターでバーチャルスペース内を動き回り、発表者に自由に話しかけることができる。参加者同士の談話も可能だ。

小田彰史氏(名城大学薬学部生物物理化学教授)は「オンラインならではのことができればと考えて導入した。年會に新しい風を吹かすことができれば」と話す。

今回の年會のメインテーマは「創薬イノベーションが切り拓く新時代の医療」。森氏は「新型コロナウイルスの感染が世界で拡大する中、今ほど革新的な創薬や新たな治療薬の開発が要請されている時代はない。薬学領域で取り組む創薬技術の開発などの基礎研究が、

新時代の医療開発を支援している。薬学が果たす役割は大きい」と語る。昨年の年會と同様に今回も、新型コロナウイルス感染症に関する発表が多い。

特別講演では、ウイルス学の第一人者である河岡義裕氏(東京大学医科学研究所特任教授)が「新興感染症の征圧を目指してをテーマに講演する。シンポジウムでは「感染初期のCOVID-19患者の重症化を防止するための新規生薬エキス製剤の開発」と題し、「ポストコロナ時代を見据えた感染症ワクチン研究」「抗ウイルス感染症研究のフロンティア」「ウイルス感染分野での挑戦」「コロナ禍で見直される室内環境と健康の大切な関係」の4題が企画された。

口頭、ポスターの一般演題でもコロナ関係のテーマは99題に達する。

「アレックススルーをどう創るのか？」をテーマにしたシンポジウムでは、女性の研究者育成を含め多様性実現に向けた環境作りについて意見が交わされる。

国際薬剤師・薬学連合(FIP)フォーラムと題して開かれる国際交流シンポジウムでは、FIPが設定する開発目標(DGS)の概要や取り組みが紹介される。また、今回新しい企画としてアジア・太平洋地域の若手研究者の交流を目的とした講演会も行われる。創薬化学の最先端研究として、日本薬学会の化学系薬学部会と医薬化学部会合同の国際交流シンポジウムも設けられている。

口頭発表とポスター発表を合わせた一般演題数は約3100題。昨年はコロナの影響もあって演題数は落ち込んだが、今回の年會では回復した。一般演題数増を背景に7000人以上の参加者数を見込む。参加者増に向けた新たな試みとして、日本医療薬学会のがん専門薬剤師、日本精神薬学会の精神薬学認定薬剤師の認定制度に必要な受講証明書も発行する予定だ。

27日には市民公開講座がウイックあいちで14時半から開かれる。シャイナリストで名城大学教授の池上彰氏が「アフターコロナの日本と世界はどこへ行く」をテーマに講演する。

神野透人氏(名城大学薬学部衛生化学教授)は「この未曾有の感染症を克服するための医療体制の未来像とその確立に向けた取り組みに関して、分かりやすく解説したい」と語る。

一般演題数は約3100題

研究者の交流を目的とした講演会も行われる。創薬化学の最先端研究として、日本薬学会の化学系薬学部会と医薬化学部会合同の国際交流シンポジウムも設けられている。

Your Partner in Medication
yuyama

Next Value! 取り間違いなく安全に。

ピッキング業務は新たなステージへ。

薬品トレイの組み合わせ次第で
約1,200種(約3,000箱)*の薬品搭載可能!

*本体幅3.6m、ピッキング台1台構成時の場合。本体幅は最小2.7mから最大7.2m、ピッキング台は2台まで増設可能となります。詳細はお問合せください。



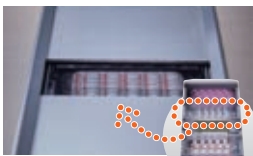
自動薬剤ピッキング装置

DrugStation



Easy 簡単に!

高速で目の前に現れてくるトレイから薬品をピッキングするだけ。



Safety ミスなく!

トレイ搭載薬品に応じて、シャッターが必要部のみ開くから取り間違いの心配無し。



Almighty 幅広く!

搭載薬品種はPTPシート/軟膏/点眼/漢方等、ピッキング可能な薬品が対象。

NEW
薬品箱に対応した
自動入出庫装置 登場!

自動薬品箱入出庫装置 DS Box Unit



DrugStationと連結することで薬品トレイ方式と薬品箱出し方式を両立します。



大阪本社ショールームにて実機をご覧いただけます。

また、Zoom*を使用し、弊社大阪ショールームを繋いだWEB見学会も実施しています。お申し込みについてはQRコードからアクセスして下さい。

*Zoomは、Zoom Video Communications, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/